

第6学年3組 学級活動指導案

1. 日時・場所 平成30年6月6日(水) 5校時 (13:50~14:35)・6年3組教室

2. 議題 「33集会をしよう～学級目標に近づこう～」

< 学級目標 >

33人全員と仲間になろう！

3. 議題について

(1) 児童の実態

素直で相手を思いやれる優しい子どもたちである。学級目標の「33人全員と仲間になろう！」には、この一年間、どんなときにも仲間を信じ、共に歩んでいこうという決意がある。そして、この目標は決して簡単ではないということ、誰一人として置いていかず、苦勞を乗り越えた先に達成があり、33人全員で乗り越えていくことが大事であるということ話を合せてこの学級目標を決めた。

本学級の子どもたちの課題としては「相手に対する関心の低さ」が挙げられる。気持ちが優しく温かい子どもたちではあるが、今、隣にいる友達への関心(思い)が弱く、それぞれが頑張り、それぞれが活動しようとする姿も見受けられる。また、日々の生活や係活動などにおいても、相手への思いやりの気持ちを欠き、口論になってしまう場面も見られる。しかし、本質は優しく相手を大切にできる子どもたちである。だからこそ、みんなで何かを達成する喜びや、共に支え励まし合い、成長していける喜びを多く実感として学んでほしいと強く願っている。

そのために、各活動において感じたこと、友達に対して思ったことを相手に進んで伝えたり、受け止めたことに対して、思いを返したりする力を身に付けてほしいと思う。言葉で心をつなげていくために、ふり返り活動を重視する。まず、力を付けていく一歩として「あなたは どう思うの」ということを繰り返し問うようにしている。毎日の生活の中で起こる物事に対してや、特に人とのかかわりの中での活動の後には思いを伝え合い、思いをつなぎ合っていけるような活動を行っている。また、自信をもって自分の思いを語ろうとするには、その気持ちを受け止められる集団でなくてはならない。「聴き合う」中で、思いやりや相手に寄り添おうとする心も更に育てていかななくてはならないと考え指導を続けている。

子どもたちは、よりよくなっていきたいと願い努力してきている。まずは「友達への関心」ここにはあるが、教師も子どもたちも、もっとその子がもつよさや、素敵に姿に気が付いていきたい。そして学級全体へと目を向け、みんなと共によくなっていこうとする気持ちを育てていけたらと思っている。その先にある、自分に自信をもてる姿や、自分たちの生活は自分たちでつくっていこうとする姿、仲間を本当に大切に思い共に歩んでいこうとする姿などを求め、子どもも教師も手探りで模索し、迷い悩みながらも歩んでいる実態がある。

話し合い活動は、今回が3回目である。1回目は「33集会をしよう」2回目は「3組のシンボルキャラクターをつくろう」を議題選定し話し合ってきた。これまでの活動で、提案理由や話し合いのめあてが大切であることを確認し、「何のために」話し合うのかを意識するよう指導してきた。課題として、一人一人の意見を大切にすることや、相手を尊重する態度が挙げられる。迷っている友達がいればそっと背中を押し、それに応える子どもたちの姿や、寄り添える姿を、今後の話し合い活動でも期待していきたい。

(2) 議題選定の理由

今回の議題「33集会をしよう～学級目標に近づこう～」を選定した理由は、クラスにとって最大の目標である学級目標の達成に向けて、それに近づきたい。という思いが、提案者をはじめ、子どもたちの心にあるからである。学級の子どもたちは現在、この目標に対しての個々の温度差はあるだろう。その気持ちの差を今回の議題をきっかけにうめていけることも期待できると考えている。日々の生活や運動会といった行事を越える中でまだまだ頑張らなくては目標を達成できないという思いも実感から芽生えてきている。と同時に、成功体験から、仲間と共に、同じ目標に向かって努力し、乗り越えていこうとする態度も徐々にではあるが、育ちつつある。そんな今であるからこそ「仲間になる」ことの意味やその大切さを改めて考え実践していく機会であると捉え、本議題を選定した。

本議題での話し合い活動では、「みんなが仲間になる」ことの第一歩として「みんなが仲よくなるために」ということが軸に話し合いが展開されると考えている。自分たちなりに決めた「仲よくなる方法」を実践する中で、集団が高まっていくことを期待している。子どもたちの言葉の中に、相手を気遣った言葉や歩み寄った言葉、よりよい3組を目指す本気の言葉、仲間というものを意識した言葉や、そして行動が沢山出ることを期待し指導を続けていきたい。集団決定することだけが大事なことなく、そこに向かうまでの子どもたちの本気の思いを引き出せる指導が課題である。

今回の第3回学級会では、柱を1本にし、何をするのかを話し合う。本学級には、なかなか自分の意見を自ら発言できない現状がある。「何を」を軸とした話し合いにすることでみんなと一緒に話し合っていると考える。「何をするか」を軸とする中でも「どのように」もまじえながらの話し合いになるのだと考える。話し合い活動や実践を通して、仲間同士の励まし合いの中で成長し、共に高め合える仲間をつくってほしいと願う。

4. 評価規準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
学級や学校の生活の充実と向上にかかわる問題に関心を持ち、他の児童と協力して自主的に集団活動に取り組もうとしている。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために話し合い、自己の役割や責任、集団としてのよりよい方法などについて考え、判断し、信頼し支え合って実践している。	みんなで楽しく豊かな学級や学校の生活をつくることの意義や学級集団としての意見をまとめる話し合い活動の効率的な進め方などについて理解している。

5. めざす子どもの姿に迫るための手立て

研究テーマ

互いのよさを生かし合い、一人一人が輝く特別活動

～「なすことによって学ぶ」共に歩む姿をめざして～

高学年のめざす子どもの姿

- 自分の思いをもち、自分の言葉で伝える子【自分に自信をもてる姿】
- 仲間を大切に思い、共に支え合おうとする子【仲間と共に歩もうとする姿】
- 自ら考え判断し、行動に移せる子【自分たちの生活は自分たちでつくっていくとする姿】

【自分の思いをもち、自分の言葉で伝える子】（自分）

○「話し合い活動カード」の活用（事前・学級会）

議題と提案理由や話し合いのめあてを伝え、議題に対する自分の考えをしっかりとって学級会に臨めるようにする。児童のふり返りに励ましのコメントをしたり、現在の自分や学級の課題について気が付けるような支援をしたりする。（ただし、最終的なねらいは「自分の言葉で語る」ことなので成長にしたがってあえて話し合い活動中は使用を避けることも考える。）

○3組会議コーナーの活用（事前）

話し合い活動の前に、議題、提案理由、めあてを掲示することで、次の話し合い活動での自分の意見をもちやすくし見通しをもって、自信をもって参加できるようにする。

○話し合い活動の進め方台本（学級会）

話し合い活動の手順や台詞がある台本で流れをイメージすることで、誰もが自信をもって準備することができるようにする。また、司会グループで相談する中で計画を立てるようにする。

○発言についての指導（常時）

相手の思いに対して自分が何かを応えることは尊いことであり、常にそれを目指せる環境づくり（様々な活動後の感想交流や、集団としてそれを受け止める心の指導など）を意識し助言する。ただし、個々の発達段階を十分考慮し、一步一步の成長を認め価値付けていけるよう丁寧に支援する。

○話し合いの可視化（学級会）

出された意見を短冊に書き、色を変えて示したり、名前の顔マークを使ったりして、話し合いの流れをつかみやすくする。黒板の記録を見れば今何について話し合っているのか分かるようにする。

○実践活動（事後）

集会のねらいや一人一人のめあてを意識しながら活動し、自分たちで決めたことを自分たちの力でやり遂げることができるようにする。集会活動を通して、達成感を得られるようにし、次に生かすことができるようにする。

【仲間を大切に思い、共に支え合おうとする子】（仲間）

○「話し合い活動カード」の活用（学級会）

「話し合い活動カード」で話し合い活動を終えての自己評価や感想、また次に向けての反省を書けるようにする。そして実践活動にも生かされるようにする。グッドさんでは、友達を認める場として、友達同士がつながる場として大切にしている。また、段階に応じてグッド自体の質も高めていく。

○教師の助言（学級会）

実態に応じた助言内容と、そのタイミング（その場ですぐか、ふり返り時にするか、今ではないのか）を考え助言する。

○「聴き合い」の指導（常時）

話を聴くということは、相手を大事にすることであり、話し合い活動においても、とても重要なことであるということを、学級活動に限らず日々指導をする。

○つなぐ支援（常時）

みんなと力を合わせ、学校生活をつくっていくことの価値や、目標の達成に向けた努力の大切さ、その先にある喜びを共に分かち合える素晴らしさを実感できるよう、児童同士がつながっていけるような声掛けや支援を意識し指導を続ける。

○実践活動（事後）

話し合い活動での提案理由やめあてを掲示したり話題にしたりすることで、何のためにその活動を行うのかを一人一人が自覚できるようにし、同じ目標に向かって協力して活動していきけるように支援していく。特に、支え合ったり助け合ったりするなどの場面では、その都度、立ち止まる時間をつくり、仲間と共に活動する意義や大切さ、楽しさについて実感をもてるようにする。また、自分たち自身の力で問題を乗り越えられるように支援する。

【自ら考え判断し、行動に移せる子】（生活）

○司会グループへの指導（事前）

司会や記録の内容に期待感をもたせ、進んで取り組めるようにする。また、学級会を自分たちでつくっていくという意識をもたせ、それを学級の友達に自分たちで伝えられるようにする。どのような学級会が3組にとって一番いいのか考えられるようにする。

○話し合いの可視化（事前 学級会）

話し合いグッズを準備し、出された意見を短冊に書いたり、意見を出した際には自分の顔のマークを黒板に貼ったりして話し合いの流れや友達の思いが分かるようにする。「出し合う→くらべ合う→まとめる」を一つの流れとすることで、見通しをもって進められるようにする。

○教師の助言（学級会）

今回の話し合い活動は「何のためのものなのか」そこから意識がはなれたときには自分たちで問題を解決していけるよう助言する。

○自分たちの生活に目を向ける（常時）

「自分たちの学校生活は自分たちでつくっていく」という問題意識を常になげかけ、気付き考え行動することで、日々の生活や活動、児童会活動や縦割り活動、行事などへの取り組む姿勢が変わってくると考える。そういった意識の高まりが「〇〇したい」や「〇〇を目指したい」というような意欲になり提案へとつながっていく。積み重ね、積み重ねで自主的・実践的な態度を育てていく。

○ふり返り活動（事後）

ふり返り活動の場を「感動を共有し味わう場」にする。活動をふり返り、みんなで共有し、互いの思いや願いを知り尊重していくことを大切にする。仲間を大事にし、仲間から大事にされていることを実感する経験を積む中で信頼を育み、支え合い共に歩んでいく姿を育てていく。また、実践してどうだったか、個々の思いを共有することで、よかった点や課題を発見し、学級全体としての次の問題を捉えられるようにする。

○めあてカード（事後）

集団決定を受けて、自分のめあても、もつことで自主的、実践的な態度で活動に取り組めるようにする。また、個の頑張りをみんなで支え、共に励まし認め合う中で目標の達成に向かえるようにする。

6. 活動の実際

(1) 事前の活動

活動の場	活動内容	支援 (○) と評価 (☆)
5月下旬	・議題ポストに「学級目標の達成に向けてみんなで力を	○事前に話し合い活動の意味について確認し、どんな学級にしたいのか考えて意見を入れるよう促

	<p>合わせていきたい」という 思いが寄せられる。</p>	<p>しておく。 ☆学級生活に関心を持ち、学級をよりよくしよう としている。 (集団活動や生活への関心・意欲・態度)</p>
<p>5月31日(木) 中休み</p>	<p>・議題ポストから議題を集め 話し合いの議題を選ぶ。</p>	<p>○今回の議題が「みんなで力を合わせて解決して いくものである」ことを提案者に確認する。 ☆寄せられた議題の中から議題を選ぼうとしてい る。(集団の一員としての思考・判断・実践)</p>
<p>6月1日(金) 中休み</p>	<p>・司会グループと提案者で柱 と話し合いのめあてを決め る。また、司会グループの 役割分担をする。 ・司会1 ・指名司会1 ・黒板記録2・ノート記録1</p>	<p>○学級会の日時を伝える。 ○今回の学級会では何を大切にして話し合いたい かを考えるように促す。 ○それぞれの役割を確認し、話し合いの流れをイメ ージできるようにする。 ☆話し合いに向けて、進んで準備に取り組もうとし ている。 (集団活動や生活への関心・意欲・態度) ☆教師とともに話し合いの進め方や話し合いのめあて を考えている。 (集団の一員としての思考・判断・実践) ☆話し合い活動の準備や進め方を理解している。 (集団活動や生活についての知識・理解)</p>
<p>6月1日(金) 帰りの会</p>	<p>・学級会で話し合う議題とめ あて、提案者の思いを学級 全体に伝える。</p>	<p>○話し合う内容や提案者の思いを伝え、思いを共 有できるようにする。 ☆議題に対して関心をもっている。 (集団活動や生活への関心・意欲・態度)</p>
<p>6月4日(月) 朝の会</p>	<p>・自分の考えを話し合い活動ノ ートに記入する。</p>	<p>○一人一人が話し合いのめあてを意識した自分の考 えを書けるようにする。 ☆提案理由やめあてに合った自分の考えを記入し ている。 (集団の一員としての思考・判断・実践)</p>
<p>6月5日(火) 朝の会</p>	<p>・「出し合う」段階の意見を学 級に伝える。</p>	<p>○出された意見の中で、どれが3組にとって大切 なことなのか考えられるようにする。 ○話し合いの見通しを自分なりにもてるようにす る。 ☆自分の考えを進んで伝えようとし、また友達 の考えと自分の考えを比べようとしている。 (集団活動や生活への関心・意欲・態度)</p>

(2) 本時の活動

①ねらい

学級目標の達成に向けて、「みんなが仲よくなれること」を意識して集会で何をするか話し合い、決める。

②活動計画

児童の活動	支援 (○) と評価 (☆)
1. はじめの言葉	○進め方などでつまずいた時には、近くで助言する。
2. 司会グループの紹介	○決まっていることは黒板等に掲示しておく。
3. 議題の確認 「33集会をしよう ～学級目標に近づこう～」	○提案者に対し提案理由に思いがしっかり乗るように事前に確認をする。
4. 提案理由の確認 「この2か月、3組は少しずつ仲よくなっているが、まだ、このままでは学級目標を達成できないと思います。達成に向けて集会を開けば、それに向かって全員で協力し、目標の達成に近づけると思いこの提案をします。」	○事前に集まった意見を掲示しておき、「くらべる」段階から話し合いを始める。 ○話し合いのめあてからそれた場合は、めあてを再度確認するよう声をかける。 ○できるだけ自分たちで決定できるように見守り、話し合いが行き詰まってしまった時には助言する。
5. めあての確認 ・内容「33人全員が仲よくなれる集会の内容にしよう」 ・技能「仲間の意見に応えよう」	○友達の思いを想像し、そこに寄り添って聞こうとしたり、相手に応えるために自分の思いを伝えようとする姿を見取り、本時や活動などに生かせるようにする。
6. 決まっていることの確認 ・6年3組全員で取り組む。 ・日時・場所	☆司会グループとして司会や記録などの役割を果たしている。
7. 話し合い 「みんなが仲よくなるために、集会で何をするのかを決める」 ① 出し合い (事前) ② くらべ合い ③ まとめる	(集団の一員としての思考・判断・実践) ☆友達の思いを認めながら、自分たちにとってよりよい解決方法や、とっていきべき行動を考えて意見を言ったり聞いたりしている。 (集団の一員としての思考・判断・実践)
8. 決まったことの確認	○ 今日の話合いのよかったところを考えられるようにする。
9. 今日のグッドさん	○ 司会グループのがんばっていた点、めあてや友達、学級全体を意識した意見や態度などを見つけて賞賛し、意欲をもって実践できるようにする。
10. 先生の話	
11. ふり返り	
12. おわりの言葉	

③ 本時の視点

- ・学級目標達成に向けて、今の自分たちが仲よくなるための方法は何かを考え、よりよい3組に向かおうとしているか。

